



2026年5月15日

報道関係者各位

一般社団法人日本化学工業協会

日化協 3 賞（安全表彰、技術賞、RC 賞）の受賞者決定

— 化学産業のさらなる発展に向け、優れた取り組みを表彰 —

一般社団法人日本化学工業協会（住所：東京都中央区、会長：岩田 圭一（住友化学（株）代表取締役会長、以下「日化協」）は、優れた安全活動を実施し模範となる事業所を表彰する「日化協 安全表彰」、優れた化学技術の開発や工業化によって化学産業ならびに経済社会の発展に寄与した事業者を表彰する「日化協 技術賞」、およびレスポンスブル・ケア（以下「RC」）活動の普及や活性化に貢献した事業所、部門、グループや個人を表彰する「日化協 RC 賞」の本年度受賞者を、本日選定いたしました。

各賞の詳細につきましては、別紙をご参照ください。

なお、5月26日（火）に、パレスホテル東京（東京都千代田区）において各賞表彰式を行う予定です。

以 上

《本件に関するお問い合わせ先》

一般社団法人日本化学工業協会 広報部 TEL:03-3297-2555

〒104-0033 東京都中央区新川 1-4-1 住友不動産六甲ビル 7 階 <https://www.nikkakyo.org/>



第 50 回 日化協 安全表彰

【安全最優秀賞】

荒川化学工業株式会社 小名浜工場

設 立 年： 1989 年

主 要 事 業： 印刷インキ用樹脂、粘着・接着剤用樹脂、紙力増強剤、塗料用樹脂、光硬化型樹脂、超淡色ロジンなどを生産

従 業 員 数： 98 名

安 全 成 績： 無災害記録時間 210.0 万時間 無災害年数 11 年 5 ヶ月

主 要 受 賞 歴： 日化協無災害事業所確認証〔2023,24,25 年〕

選 定 理 由： 当該事業所は、「絶対に怪我をさせない工場をつくる」という決意のもと「安全を生産する工場」を目指し、継続的な改善を実施している。リスクの低減と人づくりを軸とした「てっぺん活動」を、全員が参画し一丸となって推進しており、工場長以下管理職、現場担当者に至るまで安全に積極的に取り組んでいる。安全技術者を育成するなどして、プロセス危険性について技術的視点を加えたリスクの低減を図っており、また人づくりでは、全社員の学びを深め安全意識を高めるため、危険体感設備を備えた保安道場を整備するなど、その成果を上げている。現場中心の活動および技術的視点を加えた安全化により、工場の事故・災害防止を実現している。

以上から、荒川化学工業株式会社小名浜工場は、安全最優秀賞に相応しい。

【安全優秀賞】

サンレックス工業株式会社

設 立 年： 1986 年

主 要 事 業： 不織布及び不織布関連製品の製造

従 業 員 数： 139 名

安 全 成 績： 無災害記録時間 142.4 万時間 無災害年数 5 年 6 ヶ月

主 要 受 賞 歴： 四日市市消防長 優良危険物事業所表彰〔2025 年〕

四日市労働基準協会 安全衛生優良事業場賞〔2024 年〕

【安全優秀賞】

三井化学株式会社 徳山分工場

設 立 年： 1962 年

主 要 事 業： 主に自動車シート、家具・寝具、建材などに使われるポリウレタン原料であるポリエーテルポリオール（PPG）、ポリマーポリオール（POP）の製造

従 業 員 数： 57 名

安 全 成 績： 無災害記録時間 351.4 万時間 無災害年数 29 年 0 ヶ月

主要受賞歴： 周南市危険物保安協会 危険物保安功労者〔2024 年〕

【安全優秀賞】

株式会社レゾナック 五井事業所（野田）

設 立 年： 1967 年

主 要 事 業： 自動車、建築・土木、包材等に用いる接着剤の製造

従 業 員 数： 89 名

安 全 成 績： 無災害記録時間 226.2 万時間 無災害年数 14 年 6 ヶ月

主要受賞歴： 柏労働基準協会 安全管理優良事業場〔2023 年〕

【安全優秀特別賞】

旭化成ファインケム株式会社 大阪開発センター

設 立 年： 1960 年

主 要 事 業： 機能化学品・ヘルスケアマテリアル品の製造・販売

従 業 員 数： 33 名

安 全 成 績： 無災害記録時間 146.2 万時間 無災害年数 24 年 8 ヶ月

主要受賞歴： 西野田労働基準協会 労働衛生奨励賞〔2022,24 年〕
日化協無災害事業所確認証〔2022,23,24 年〕

<ご参考>

【日化協安全表彰について】

化学業界における自主的な保安・安全衛生の推進の一環として、安全の模範となる事業所を表彰する制度で、安全表彰会議で審査されます。

2026年は第50回を迎え、2025年12月までの実績に基づく募集を行い、優れた安全成績を収める8事業所から推薦（応募）がありました。審査は、鈴木和彦議長（岡山大学名誉教授）のもと、安全表彰会議において行われ、様々な角度から慎重かつ公平に表彰対象候補を絞り込み、特に優れた6事業所を1次選考事業所として選びました。2次選考は現地審査を実施し、各候補事業所の安全活動に対する取り組みを確認しました。その内容を踏まえ安全表彰会議にて慎重に審議し、その結果、安全最優秀賞1事業所、安全優秀賞3事業所および安全優秀特別賞1事業所を選考しました。

第 58 回 日化協 技術賞

【総合賞】

独創性に富んだ優れた技術で、かつ科学技術の進歩に寄与したもので、技術として確立しており産業上の価値の高いもの

花王株式会社

受賞業績：「嗅覚受容体の網羅的な評価系「ScentVista 400[®]」の開発」

業績内容：

ヒトの鼻では、においセンサーとして約 400 種類の嗅覚受容体が備わっている。それら嗅覚受容体がにおいにどのように反応するのかを解析できないという技術的制約が存在していた。これまで解析の成功が報告された嗅覚受容体の総数は約 1 割にとどまり、においの感覚が生じる仕組みの理解と応用を妨げてきた。嗅覚受容体は培養細胞に発現させて解析するが、本業績では、生物種間で保存された配列情報を利用する「進化的コンセンサス化法」により受容体を安定化することで、約 400 種の受容体を網羅的に発現させ、においへの反応を再現可能な評価系 ScentVista 400[®]を構築した。

におい試料を投与して得られる受容体反応パターンは、感じるにおいの質と対応して特徴が現れる。例えば、類似した香り同士ではパターンは似て、濃度により香りの質が変化するケースではパターンも変化する。複数成分を同時に嗅いだ際に生じる感覚の抑制や増強といった、機器による成分分析では推し量り難い現象を、受容体レベルで扱えるようにした。

日用品で扱う香料は多成分であり、従来の香料開発では 1,000 以上の香料素材から数十種類が選ばれる。専門家の経験と官能評価に基づく試行錯誤に依存しやすく、香料を迅速かつ科学的に設計することが困難な場合がある。本技術によって、不快臭に関わる受容体を見つけ、有効な香料素材を選ぶことによって、受容体反応パターンを心地よい香りの反応パターンに近づけるという視点から新しい香り設計の道が開かれ、迅速かつ高い効果を持つ消臭香料の開発が可能になり、製品開発に活かされている。

本技術は、香り成分を人間の感覚に"翻訳"するために不可欠な評価系であり、嗅覚メカニズムの本質理解や科学的な香料開発プロセスに寄与し、香料の使用量低減や使用原料数の最適化にもつながることが期待される。さらに、本技術で用いられている「進化的コンセンサス化法」は、香料業界での応用だけでなく、ヒトやヒト以外の生物種の幅広い受容体の解析技術として、医療、衛生等の分野への大きな波及効果が期待できる。

【技術特別賞】

独創的技術あるいは改良技術で、科学技術の進歩に寄与したもので、比較的規模は小さくとも、独創的で技術的に優れたもの

東ソー株式会社

受賞業績：「UDM 技術による高耐熱酸化物系 CMC(Oxyera[®])の創出」

業績内容：

CMC(Ceramic Matrix Composites)は、セラミックス製の連続繊維とセラミックスマトリックスを複合化した材料であり、「割れないセラミックス」として知られている。CMC は複雑形状・大型成型も可能であり金属等の既存材料では適用が困難な高温・過酷環境向けの利用が検討されている。特に酸化物系セラミックス繊維を用いた酸化物系 CMC は、汎用的な一般工業部材への適用が期待され、新たな市場開拓が期待されているが、耐熱性の低さが大きな課題であった。

この課題を解決するため、セラミックス連続繊維への元素ドーピングによる耐熱性向上技術 (UDM 技術：Uniform Doping Methods) を構築し、高耐熱酸化物系 CMC (Oxyera[®]) を創出した。Oxyera[®]の開発においては、UDM 技術以外にも、マトリックス自体の耐熱性向上やマトリックス／繊維界面の制御も重要であり、それらの材料設計も併せて行った。本技術による酸化物系 CMC は、1,200℃で 1,000 時間の長時間保持においても強度劣化せず、従来の酸化物系 CMC や Ni 基単結晶合金を凌駕する高い耐熱性を示す。

本技術はこれまでに国際学会での発表や新聞報道を通じて国内外から高い評価を受けている。現在は一般産業用途や環境エネルギー関連技術での幅広い分野での潜在用途について検討を進めている。

本技術の創出により高温・過酷環境への新たな材料として幅広い用途への展開、市場開拓が期待される。本技術は国内セラミックス産業における新規市場の獲得に加え、国産セラミックス連続繊維の市場開拓にも貢献する。また、タービン発電などの低炭素化技術や新規エネルギー分野 (水素・アンモニア発電) への応用によって、社会・産業全体への波及効果も期待される。

【環境技術賞】

独創的技術あるいは改良技術で、環境負荷低減に対して著しい効果があり、科学技術の進歩に寄与したもの

花王株式会社

受賞業績：「鑄造用無機コーテッドサンド『Kao ICS』の開発」

業績内容：

鑄造とは、砂で作った鑄型に熔融金属を流し込み、冷却・凝固させて部品形状を得る成形法である。鑄型は砂をバインダーで固めて作られ、自動車鑄物など量産鑄物分野では、砂の表面にフェノール樹脂を被覆したコーテッドサンド（有機 RCS）が主に用いられる。しかし、有機 RCS は熱分解により臭気・有害ガスやヤニを発生し、作業環境を過酷化させるだけでなく、ガス欠陥が高精細鑄物の実現の妨げとなっている。そのため、誰でも扱い易く、高品質化できる新技術が求められている。そこで近年、無機バインダーである水ガラスの活用が検討されてきたが、環境面で有利なもの、湿態で“べとべと”のため充填不良を起こしやすいという課題があり、普及妨げの一因となっている。

本技術は、新コンセプトの「無機×乾態」のコーテッドサンドとして、無機バインダーを砂表面に固定化する独自技術を開発することで“さらさら”の乾態化を実現し、高精度鑄物の実現を可能にするものである。顧客実機テストでも発煙がなく熱分解ガスゼロで、有機 RCS で出たガス欠陥が抑制されるなど、クリーン環境・高品質・使いやすさを同時に達成できることを確認し、LCA ではトータルで約 50% の CO₂ 低減、VOC ゼロが見込まれる。

花王は、50 年以上にわたって鑄造用材料に関する事業で貢献してきたが、本技術により、働きやすい職場づくりと高付加価値鑄物を両立する「Green Foundry」を提案し、更なる鑄造業界の発展に寄与する。

第 20 回 日化協レスポンスブル・ケア (RC) 賞

【RC 大賞】

花王ロジスティクス株式会社

RC 推進部

テーマ：ドライバーが安心安全に働ける持続可能な物流をめざして

活 動：

花王グループは、社会のサステナビリティに貢献することを使命とし、安全・健康・環境などの RC 活動を通じてステークホルダーとの信頼関係の構築に努めてきた。ロジスティクス分野においては、人々の安全と環境に配慮しつつ、製品を確実かつ低コストでお届けすることを使命としている。本活動は、昨今の物流を取り巻く環境変化を踏まえ、花王ロジスティクス（株）が進めている①交通事故撲滅に向けた取り組みの強化、②高齢ドライバーを考慮した持続可能な輸送の実現、③社会との対話について取り組み、使命に貢献している。特にこれから課題となる高齢ドライバーへの対策に積極的に取り組み、その内容は他社の参考となる良い活動である。

【RC 審査員特別賞】

住友共同電力株式会社

テーマ：工事安全パトロールにおける笑顔のコミュニケーション活動

活 動：

住友共同電力株式会社は、笑顔で対話する工事安全パトロールのほか、協力会社の KY シート添削などを通して安全文化を醸成する活動を実施している。その結果、活動開始以降、火力発電所の設備点検工事において、協力会社の労働災害ゼロを継続している。本活動は、過去に発生した協力会社作業員の重大災害の原因究明において、現場の最前線で働く作業員とのコミュニケーション不足に気づき、健康飲料販売員の相手を思いやる笑顔のコミュニケーションにヒントを得て開始し、さらに地域協力会社との心理的安全性向上、相互協力関係構築にもつながっている。

【RC 優秀賞】

旭化成アドバンス株式会社

樹脂化学品本部 化学品事業部 九州営業部 宮崎ケミカルセンター

テーマ：顧客カード作成

活 動：

宮崎ケミカルセンターでは、種々殺菌用途の次亜塩素酸ソーダ並びに排水処理用途のポリ塩化アルミニウムの小分製造業務（20kg ポリ缶及び 20kg キュービテナー）と配送業務（小分け品及びコンテナタンク）を行っている。特にコンテナタンクを用いる納入先は、大型タンクローリーの入れない小口ユーザーが中心であり、上下水道、

食肉・食品、温泉など多岐に渡る。顧客ごとに様々な納入場所と納入方法が存在し、また地方特有の狭い道路や未舗装の道路を通る納入場所も多い。このため、配送業務と納入業務に関する労災発生リスク低減を主目的に顧客毎の「顧客カード」作成に取り組み、課題解決につなげている。

<ご参考>

【日化協レスポンシブル・ケア（RC）賞選考基準】

- ・ RC の 6 コード（保安防災、労働安全衛生、環境保全、コミュニケーション、化学品・製品安全、物流安全）に関する活動で顕著な成績を残したもの
- ・ 企業内の RC 活動の推進にあたり、率先して実施し、顕著な貢献のあったもの
- ・ RC の海外活動に貢献したもの

【レスポンシブル・ケアとは】

地球環境問題や工業化地域の拡大などによる「環境・健康・安全」に関する問題の広がり、また、技術の進歩により発生する新たな問題等に対して、化学物質に関する環境・健康・安全を規制だけで確保していくことは難しくなっています。換言すると、環境・健康・安全を確保していくために「化学製品を扱う事業者が責任ある自主的な行動をとること」が今まで以上に求められる時代となっている、と言えます。

こうした背景を踏まえて、化学業界では、化学物質を扱うそれぞれの企業が化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至る全ての過程において、自主的に「環境・健康・安全」を確保し、その成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う、という活動に取り組んでいます。この活動を“レスポンシブル・ケア”と呼んでいます。

レスポンシブル・ケアは 1985 年にカナダで誕生しました。1989 年に国際化学工業協会協議会（ICCA）が設立され、レスポンシブル・ケアを通じた安全・環境の向上への取り組みと社会との対話を所属各国協会が協力して行うとともに、レスポンシブル・ケアを途上国等に普及させる活動を行っています。